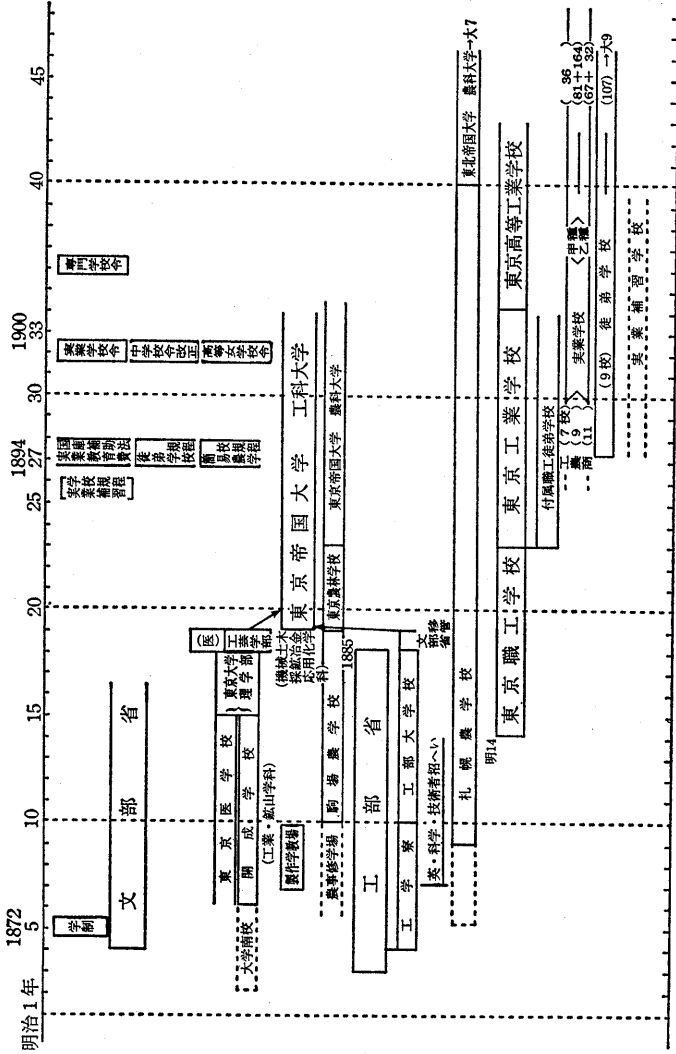


参考（図表と統計）

権利	Copyrights United Nations University
雑誌名	わが国離陸期の実業教育
ページ	280-286
発行年	1982
URL	http://hdl.handle.net/2344/00051080

参考 (図表と統計)

I 明治期における実業教育



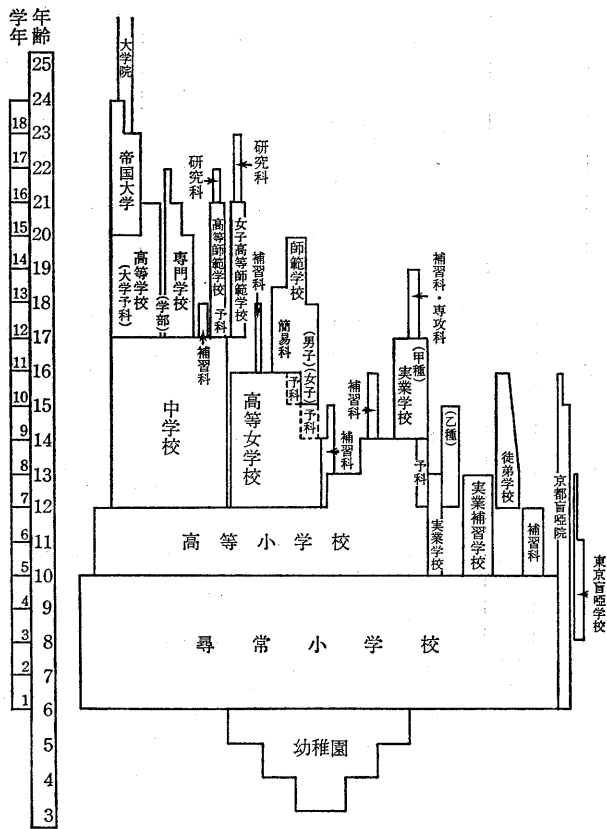
(作成) 豊田俊雄.

II 公私立実業学校数(明治28年~大正3年)

種 別 年 度	農 業		工 業	徒 弟	商 業		水 産		商 船		簡易農業	簡易商業
	甲	乙			甲	乙	甲	乙	甲	乙		
明治28年(1895)		9	7	9	11						13	4
29 (1896)		10	7	16	11						26	5
30 (1897)		9	10	17	13						33	10
31 (1898)		15	13	23	16						30	9
32 (1899)		49	17	19	28					4		
33 (1900)	36	20	15	22	30	8			4			
34 (1901)	51	26	18	25	38	3			5			
35 (1902)	56	44	24	33	41	9			7			
36 (1903)	57	50	28	37	43	9	5	1	7			
37 (1904)	61	53	30	40	46	12	5	2	7			
38 (1905)	63	54	30	46	47	12	6	4	7			
39 (1906)	65	71	29	57	50	14	7	4	8			
40 (1907)	70	91	31	75	54	17	8	6	9			
41 (1908)	77	103	32	81	60	18	8	6	12			
42 (1909)	77	125	34	87	62	19	9	6	12			
43 (1910)	78	140	36	103	66	24	11	6	12			
44 (1911)	80	157	34	107	67	30	9	6	12			
大正元年(1912)	81	164	36	107	67	32	9	6	12			
2 (1913)	82	167	35	112	69	34	9	7	11			
3 (1914)	83	168	35	117	69	39	9	4	11			

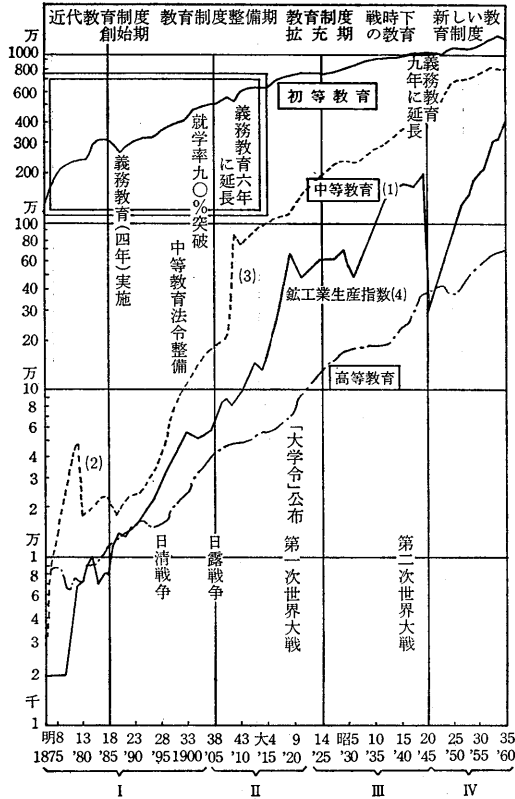
(出所) 国立教育研究所『日本近代教育百年史』

III 学校系統図 (明治 36 年)



(出所) 文部省『学制百年史』資料編.

IV 経済の成長(鉱工業生産指数)と初等・中等・高等教育機関の在学者数の推移



(出所) 前掲『日本の成長と教育』。

V 中等教育在学者数の伸びと生産・所得の伸びの関係

年 度	有業人口1人当たり 国民所得(1)	中等教育在学者数	鉱工業生産指数 (大正3年=100)
明治 28 年(1895)	4.5 万円	4.6 万人	22.8
38 (1905)	4.7	19.1	52.1
大正 4 年(1915)	7.3	105.8	126.0
14 (1925)	11.1	206.9	478.3

(1) 昭和 35 年の貨幣価値に換算。

(出所) 文部省『日本の成長と教育』。

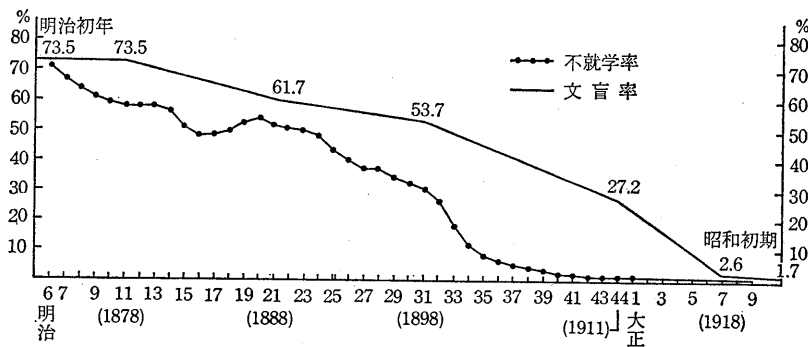
VI 中等教育機関への進学率

(単位: %)

年 度	男	女	平 均
明治 28 年(1895)	5.1	1.3	4.3
33 (1900)	11.1	2.7	8.6
38 (1905)	12.4	4.2	8.8
43 (1910)	13.9	9.2	12.3
大正 4 年(1915)	10.8	5.0	8.1
9 (1920)	19.7	11.5	15.8
14 (1925)	19.8	14.1	17.1
昭和 5 年(1930)	21.1	15.5	18.3
10 (1935)	20.4	16.5	18.5
15 (1940)	28.0	22.0	25.0
20 (1945)	46.9	43.6	45.3
25 (1950)	55.0	38.0	46.7
30 (1955)	55.5	47.4	51.5
35 (1960)	59.6	55.9	57.7
36 (1961)	63.6	60.3	62.0

昭和 22 年以前は小学校(尋常科またはそれと同程度)の卒業者のうち、旧制中学校・高等女学校(実科を除く)・実業学校(甲)および師範学校(第 1 部)のそれぞれ本科へ進学した者の割合をとった。昭和 23 年以降は新制中学校を卒業して新制高等学校(本科)へ進学した者の割合をとった。
(出所) 前掲『日本の成長と教育』。

VII 明治以降の不就学と文盲



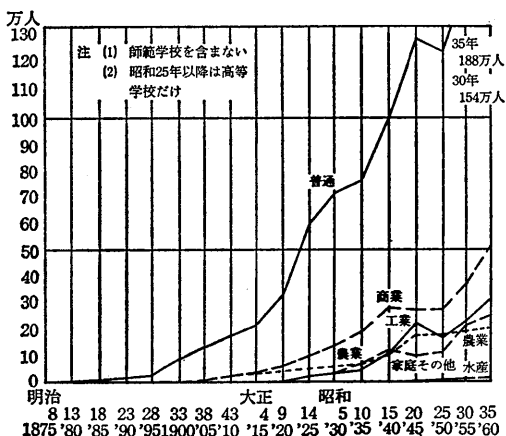
(出所) 豊田俊雄『アジアの教育』, アジア経済出版会, 1979年。

Ⅷ アジア各国中等教育の就学状況(コース別実数と比率) (1975年現在)

	普通コース		職業コース		教員養成コース	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
アフガニスタン	146,988	94.4	4,240	2.7	4,400	2.9
バングラデシュ	1,450,000	98.6	11,800	0.8	8,800	0.6
ビルマ	709,075	99.0	4,080	0.6	3,245	0.4
インド	15,226,857	95.6	510,791	3.2	190,209	1.2
インドネシア	1,260,900	65.6	545,838	28.2	114,960	6.0
イラン	1,513,988	94.8	56,745	3.6	26,058	1.6
カンボジア	79,992	92.3	5,763	6.6	945	1.1
韓国	2,055,871	84.3	381,877	15.7	→高等教育	
ラオス	9,519	65.2	1,742	11.9	3,340	22.9
マレーシア	539,673	97.2	15,789	2.8	→高等教育	
モンゴル	74,333	87.6	8,254	9.7	2,239	2.7
ネパール	57,440	90.2	5,479	8.6	760	1.2
パキスタン	1,275,000	97.9	20,000	1.5	8,000	0.6
フィリピン	1,621,020	94.3	98,366	5.7	→高等教育	
シンガポール	155,050	89.6	18,059	10.4	→高等教育	
スリランカ	887,200	98.5	7,838	0.9	5,800	0.6
タイ	665,088	75.1	185,275	20.9	34,651	4.0
ベトナム	903,316	96.1	28,625	3.0	8,008	0.9

(出所) 前掲『アジアの教育』。

Ⅸ 専攻分野別中等教育機関在学者数の推移。



(出所) 前掲『日本の成長と教育』。

X 物の値段 (単位: 円)

	明治 30 年前後	現在 (昭和54~56年)
総理大臣の月給	900	1,550,000
巡査の初任給	9	99,100
大工の手間賃(月)	19.8 (0.66 円×30 日)	262,250 (10,490 円×25 日)
白 米 (10 kg)	1.12	3,235
牛 肉 (100 g)	0.05	314
ビール (大びん 1 本)	0.19 (明治 34 年)	240
豆 腐	0.01 (明治 41 年)	80
大 学 授 業 料 (早大年額)	50 (明治 45 年)	340,000
郵便料(ハガキ)	0.015 (明治 32 年)	40
理 髪 料	0.08 (散髪のみ)	2,100

(出所) 朝日新聞社『値段の風俗史』より作成。